

兵庫県立人と自然の博物館

事業名「兵庫の「海の学び」活動拠点の充実と
次世代の若手育成プログラムの創出」

実施期間：平成28年5月28日（土）～平成29年2月28日（火）



【事業の内容・目的】

- 兵庫県の瀬戸内海側と日本海側のそれぞれのサテライト拠点施設における一般の方々向けの活動の充実を図るとともに、海洋教育に興味をもつ大学生らを対象にしたボランティア・リーダーの育成研修を行い、実体験に基づく深い理解と興味を育む「海の学び」を根付かせ、次世代の担い手の創出に取り組むことを目的とした。
- 「竹野スノーケルセンター」と「いえしま自然体験センター」をそれぞれ日本海側と瀬戸内海側の拠点施設とし、博物館と連携することで活動内容やその質の充実を図った。
- ボランティア・リーダーの大学生らが絶滅危惧種等を対象とした本格的なフィールド科学調査を実体験し、自然環境の消失と人間活動の関わりや、生態系保全の視点を学び、海への深い理解と興味を育む機会とした。
- ボランティア・リーダーの大学生らが実践した内容や経験等を成果としてまとめて発表し、次世代を育成する仕組づくりを行った。

活動の様子

1. 『日本海側の拠点施設「竹野スノーケルセンター」の活動充実、若手リーダー研修および海洋教育の実践』

【開催日時】平成28年5月28日（土）・29日（日）、6月4日（土）・5日（日）、7月2日（土）、8月17日（水）・18日（木）、9月11日（日）、10月1日（土）、12月10日（土）、平成29年3月11日（土）・12日（日）〈合計12日間〉

【開催場所】竹野スノーケルセンター（豊岡市）、居組県民サンビーチ（美方郡新温泉町）、三田浜海水浴場（美方郡香美町）

【参加者数】合計135人（延べ人数）

【活動内容・目的】

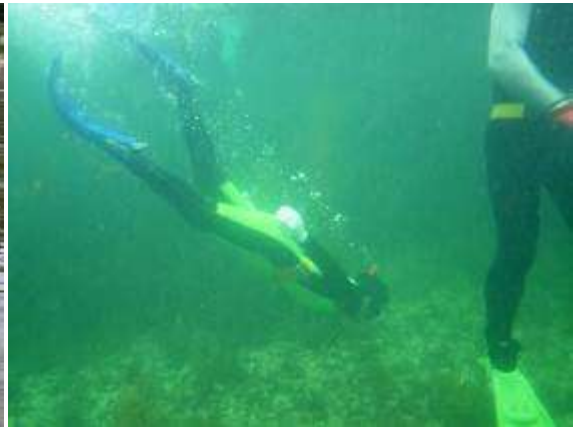
- 日本海側の拠点施設「竹野スノーケルセンター」を中心とした日本海側の海岸域で、兵庫県内の子供たちや一般の方々を対象に実施されているスノーケル体験や磯観察等の活動に、博物館や外部からの専門家を加えることで、内容の充実を図ることを目的とした。
- 上記の目的で実施された野外観察会やボランティア・リーダーの育成研修では、スノーケルを使った海中観察におけるスキルや、海辺の生きものに関する正確な知識を向上させるプログラムとした。さらに、活動を通して、日本海側の海岸域に暮らす身近な生きものや豊かな自然環境の大切さを感じられる内容とした。
- 環境省のパークボランティアとして竹野スノーケルセンターで活動されている方々に対しては、環境省から依頼を受けて「海洋生物勉強会」を開催し、海洋生物の名前や生態など、正確な情報を子供たちに伝える大切さを共有した。また、パークボランティアの方々と大学生を中心とした若手ボランティア・リーダーの交流の場を創出することもできた。



救命救急の安全講習の様子



最初の説明の様子



「海中の生きもの観察&スキンドайビングのスキルアップ講座」の様子



採集した生きものの観察の様子



海藻の専門講座の様子

2016年6月4日（土）・5日（日）および8月17日（水）・18日（木）には、竹野スノーケルセンターで「海中の生きもの観察&スキンドайビングのスキルアップ講座」を実施

野外観察会・自然講座・育成研修を通して、スノーケルを使った海中観察のスキルアップや、海辺の生きものに関する正確な知識を向上させるプログラムとした。講座の最初には、救命救急の実習を行い、「海の学び」活動に不可欠な安全管理について学んだ。様々な海洋生物を直接観察し、日本海側の自然環境や生きものの特徴を実感してもらうことができた。

【参加者の声】

- 回答内容A：どういう生き物がどういう場所に生息しているのか実際に自分の目で見る事ができた。しっかり意見をもって話す人の姿を見て、自分もしっかり自分の意見を主張できるようにしたいと思った。
- 回答内容B：海中という、海の生きものと同じ環境に身を置き、間近で生態を観察することができた。また、他学部・他大学・他専門学校の学生と交流することで色々な意見を知り、視野を広げることができた。
- 回答内容C：経験することで座学だけでは学べないことまで身を持って知ることができた。実際に泳いで多様性を確認した際、海を守りたいと感じた。

2. 『瀬戸内海側の拠点施設「いえしま自然体験センター」の活動充実、若手リーダー研修および海洋教育の実践』

【開催日時】平成28年6月7日(火)、6月11日(水)、7月26日(火)、7月28日(金)、9月14日(水)、10月23日(日)、平成29年1月14日〈合計7日間〉

【開催場所】いえしま自然体験センター(姫路市)・芦屋市立打出浜小学校・相生市立海の環境交流ハウス〈合計3か所〉

【参加者数】合計317人(延べ人数)

【活動内容・目的】

- 拠点施設「いえしま自然体験センター」を中心とした瀬戸内海側の海岸域で、兵庫県内の子供たちや一般の方を対象に実施されている磯観察や地曳網体験等の活動に、博物館や外部からの専門家を加えることで、内容の充実を図ることを目的とした。
- 上記の目的で実施された野外観察会やボランティア・リーダーの育成研修では、日本海側での活動と同様に、瀬戸内海側の海岸域に暮らす身近な生きものや豊かな自然環境の大切さを感じられる内容とした。
- さらに、瀬戸内海の海岸域で積極的に「海の学び」活動を展開している芦屋市の小学校や相生市の里海活動を支援し、大学生を中心とした若手ボランティア・リーダーの育成の場を創出することができた。



「いえしま自然体験センター」での地曳網調査体験および磯観察の様子

「いえしま自然体験センター」での野外観察会や市民参加型調査についても、日本海側と同様に、海中観察のスキルアップや海辺の生きものに関する正確な知識を向上させるプログラムとした。小型の地曳網調査体験では砂浜海岸に暮らす稚魚を対象として、浅い砂地の海域が稚魚の大切な保育場となっていることを伝える内容とした。様々な海洋生物を直接観察し、瀬戸内海側の自然環境や生きものの特徴を実感してもらうことができた。



大学生を中心とした若手ボランティア・リーダーの育成研修の様子



芦屋市立打出浜小学校横の泥干潟での活動の様子



牡蠣の種付けと周辺生物の調査の様子（相生市こども里海クラブ）

【参加者の声】

- 回答内容A：短い時間だったので、このセミナーで見たこと聞いたことをもっと詳しく調べたいと思った。今回の海の生きもの観察のように、海の様子を自分の目で見れる、海のことを良く知っている先生方がついていてくれるような催しがあると嬉しい。
- 回答内容B：海の近くで海のこと詳しい人たちからたくさん教えてもらった。知らない生きものだらけだったので、もっと知りたくなった。
- 回答内容C：フィールドに出て、普段の大学生活では経験できない、スキルアップになるような実践的な活動があればこれからも参加したい。

3. 『大学生を中心としたボランティア・リーダーによる本格フィールド調査』

【開催日時】平成28年7月18日（月）・19日（火）・20日（水）・21日（木）、9月29日（木）・30日（金）〈合計6日間〉

【開催場所】福岡県北九州市小倉南区曾根干潟および兵庫県立香住高等学校（香住沖）〈合計2か所〉

【参加者数】合計15人（香住高校の全生徒を対象とした講演会参加者数は省く）

【活動内容・目的】

- 大学生を中心とした若手リーダーとともに絶滅危惧種（カブトガニ）の保全を目的としたフィールド調査を実施した。地域外の異なる海洋環境を知り、自然環境の保全や希少種保護の視点を育むことで、自分たちが暮らす地域の特徴や魅力を改めて感じられるように導いた。
- さらに、大学生や高校生らの若手リーダー育成を目的に、兵庫県立香住高等学校の小型船「しりうす」を活用し、国立科学博物館の窪寺恒己博士を招へいして、世界的にも注目度が高い日本海のダイオウイカの探索プロジェクトを実施した。



北九州市曾根干潟における絶滅危惧種「カブトガニ」の保全を目的とした調査の様子



日本海のダイオウイカ探索プロジェクトの様子

【参加者の声】

○回答内容A：この干潟は人間活動とも接触する場所である。そのため、この豊かな曾根干潟の環境を今後も守っていくためには、カブトガニの生態を研究するだけでなく、カブトガニが生息する地域を社会面からも支えていくということが必要になる。地域の人、研究者、行政など多様な主体が関わり、地域内外での協力のもと保全を進めていく必要もある。

○回答内容B：生き物と触れ合うツアーなどで、実際にカブトガニに触れる機会を作ることがカブトガニの保全につながるのではないかと感じた。

○回答内容C：私の家の周りは山に囲まれているため、干潟という場所に足を踏み入れることは初めての経験であった。泥干潟での調査は足元がぬかるんでいて思うように動けず、とても大変なものだった。しかし、泥の中からカブトガニを見つけた時はその大変さを忘れられるくらいワクワクした気持ちになれた。また、カブトガニ以外にもたくさんの魚類や甲殻類を見ることができて、とても楽しい時間だった。

曾根干潟のようにカブトガニがたくさんいるような豊かな自然環境を各地で次世代に残していくにはどうしたらいいかを多くの方が真剣に考えていくべきだとおもう。干潟の魅力に触れたことのある人をすこしでも増やすことが干潟の未来を考える原動力につながっていくのではないかと感じた。

4. 『大学生を中心としたボランティア・リーダーによる成果発表』

【開催日時】平成27年8月17日(水)・18日(木)、10月23日(日)、平成29年2月10日(金)・11日(土)〈合計5日間〉

*8月17日・18日と10月23日は活動①および②と同時に実施

【開催場所】竹野スノーケルセンター・いえしま自然体験センター・兵庫県立人と自然の博物館〈合計3か所〉

【参加者数】展示交流会「共生のひろば」の来場者数 合計750人

【活動内容・目的】

- 地域の自然・環境・文化を自ら学び伝える活動を行っている方々が、お互いの活動を知り、活動の質をあげ、新たな展開のヒントを得る場として開催している「共生のひろば」において、ボランティア・リーダーの大学生らが、これまで行った活動を発表した。自らの発表だけではなく、異なる地域の自然環境やそこにくらす生きものについて知り、地域の特徴や魅力を改めて感じられるように導いた。



竹野スノーケルセンターでの活動を口頭発表している様子



絶滅危惧種の調査と学生団体の活動をポスター発表している様子



相生市のこども里海クラブの口頭およびポスター発表の様子



展示交流会での活発な交流の様子

【参加者の声】

○回答内容A：自分たちが発表するというを通して、より詳しく日本海について学ぶことができた。自分の住む兵庫県の海について、その地形的特徴や素晴らしさを再確認することができた。今後も大学生と博物館が協働して、兵庫県のことを知る、楽しむ、取り組みを続けていきたい。

○回答内容B：子供たちがカブトガニに興味をもってくれた。実物標本から分かることも多くて楽しかった。カブトガニの生態的特徴をくわしく知ることができた。もっと他の生きものについても知りたいと感じた。

○回答内容C：普段接することができない方々と関わることができ楽しかった。一人一人が自分の話をすると永遠に話せるような人たちなので、こういった人たちとの交流の場をもっと得たい。

【事業全体のまとめ】

昨年度の海の学びミュージアムサポート事業によって、兵庫県内の各地域や学校で実施されている里海活動や体験学習等に博物館が深く関わるができるようになり、今年度は兵庫県の瀬戸内海側と日本海側のそれぞれの拠点施設の活動の充実に力を注ぐことができた。また、海の学び活動の両拠点施設における長年の懸案事項である「若手ボランティアの育成」についても、今年度の事業を通して、博物館や大学と連携する一つの形を創出することができた。

それぞれの拠点施設の活動を通して、兵庫の多様な海の魅力や大切さを理解し、実感する機会を数多く創出することができた。活動に参加した子供たちや大学生を中心としたボランティア・リーダーからは、「知らない生きものだらけだったので、もっと知りたくなった」・「経験することで座学だけでは学べないことまで身を持って知ることができた」・「実際に泳いで多様性を確認した際、海を守りたいと感じた」・「他の方々と交流することで色々な意見を知り、視野を広げることができた」などの感想をいただくことができた。

今後は、中核拠点である博物館と「海の学び」活動の拠点施設が密に連携して、質の高い海辺の教育普及活動を発展させていく必要がある。特に「若手ボランティアの育成」については継続的な活動が不可欠となる。また、「海の学び」の実施を希望する新規の地域や学校等を開発していくことも同時に期待されている。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 山陰海岸国立公園 竹野スノーケルセンター・ビジターセンター	兵庫県の日本海側の活動拠点
2. 兵庫県立いえしま自然体験センター	兵庫県の瀬戸内海側の活動拠点
3. 兵庫県立大学・学生団体「いきものずかん」	大学生らがボランティア・リーダーとして事業をサポート
4. 相生市環境課（里海クラブ）	瀬戸内海側の干潟や海辺の観察会等を共同開催
5. 兵庫県立香住高等学校	小型船「しりうす」を活用した、日本海のダイオウイカ探索プロジェクトを共同開催

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 神戸新聞	ユニーク研究 市民らが発表；平成29年2月11日
2.	
3.	
4.	
5.	

以上